



**うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。  
どれだけ実践できているか、チェックしてみましょう！**

作業したら直ちに記帳しよう(営農の手引き綴じ込みの農作業メモ・栽培履歴記録簿へ)

病害虫予防のため、箱剤を施用しましょう

推進技術	目標	チェック
1 播種量 (うす播きの励行)	・ 1箱当たり乾もみ120gの播種は実施できましたか。 (太植による過剰生育の抑制)	
2 育苗日数 (健苗の育成)	・ 播種から田植えまで1か月以内の育苗日数が守れましたか。 (初期生育の確保)	
3 植付本数 (3~4本植えの励行)	・ 1株当たり3~4本の植付本数を守りましょう。(適正茎数の確保)	
4 適正な栽植密度 (優良茎の確保)	・ 1坪当たり 60株の栽植密度が確保できましたか。 (適正茎数の確保・乳白粒対策)	
5 適正な施肥 (栄養凋落防止と登熟向上)	・ 生育に応じた施肥ができていますか。 ・ 生育状況に応じた追加穂肥の実施をしましょう。	
6 田植え時期 (早植えの防止)	・ 5月田植えを実施できましたか。(過剰生育の防止)	
7 中干し・溝切り (遅発分けつの抑制)	・ 田植え1か月後からの実施(過剰生育防止) ・ 中干し期間1か月(コシヒカリ)の遵守	
8 除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・ 7月上旬までの追加除草 ・ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施	
9 水管理 (飽水管理の徹底)	・ 中干し後から出穂までの約1か月(コシヒカリ)の飽水管理 ・ 出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理 (乳白粒対策、胴割粒防止)	
10 刈取時期 (適期刈取りの励行)	・ もみの黄化程度に応じた刈取り	

## 今月のポイント① 農薬使用基準を守って使うこと！

営農の手引き32ページも参照ください。

- 初期害虫・いもちの同時防除(箱施薬剤)
- 農薬の使用量、使用時期等を必ず守って下さい。

使用薬剤	効果・特徴	使用量	使用時期
Dr.オリゼリディア 箱粒剤	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内穎褐変病、イネドロオイムシ、イネミスゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、イネカラバエ、フタオビコヤガ、イナゴ類、イネツトムシ	50g/箱	移植3日前~ 田植当日

※水稻育苗後、ハウス内で野菜等を作付けする場合は、ハウス内での箱粒剤の散布を控えてください。

※苗箱に箱施薬剤と間違えて本田除草剤をまかないよう注意してください。

裏へ続く

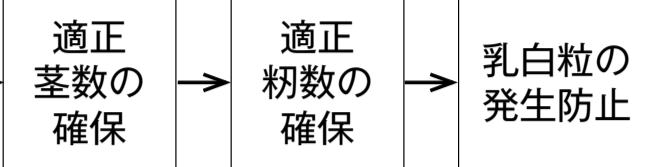
三点セット（適正栽植密度、植付本数、5月田植）で乳白粒の発生を予防しよう

今月のポイント② コシヒカリの田植えは5月植えで、3～4本植え！

営農の手引き33ページも参照ください。

- 乳白粒の発生予防は過繁茂防止から。
- 過繁茂防止のため60株/坪植え、植付本数3～4本/株、5月田植えとし、18箱/10aで植付しましょう。

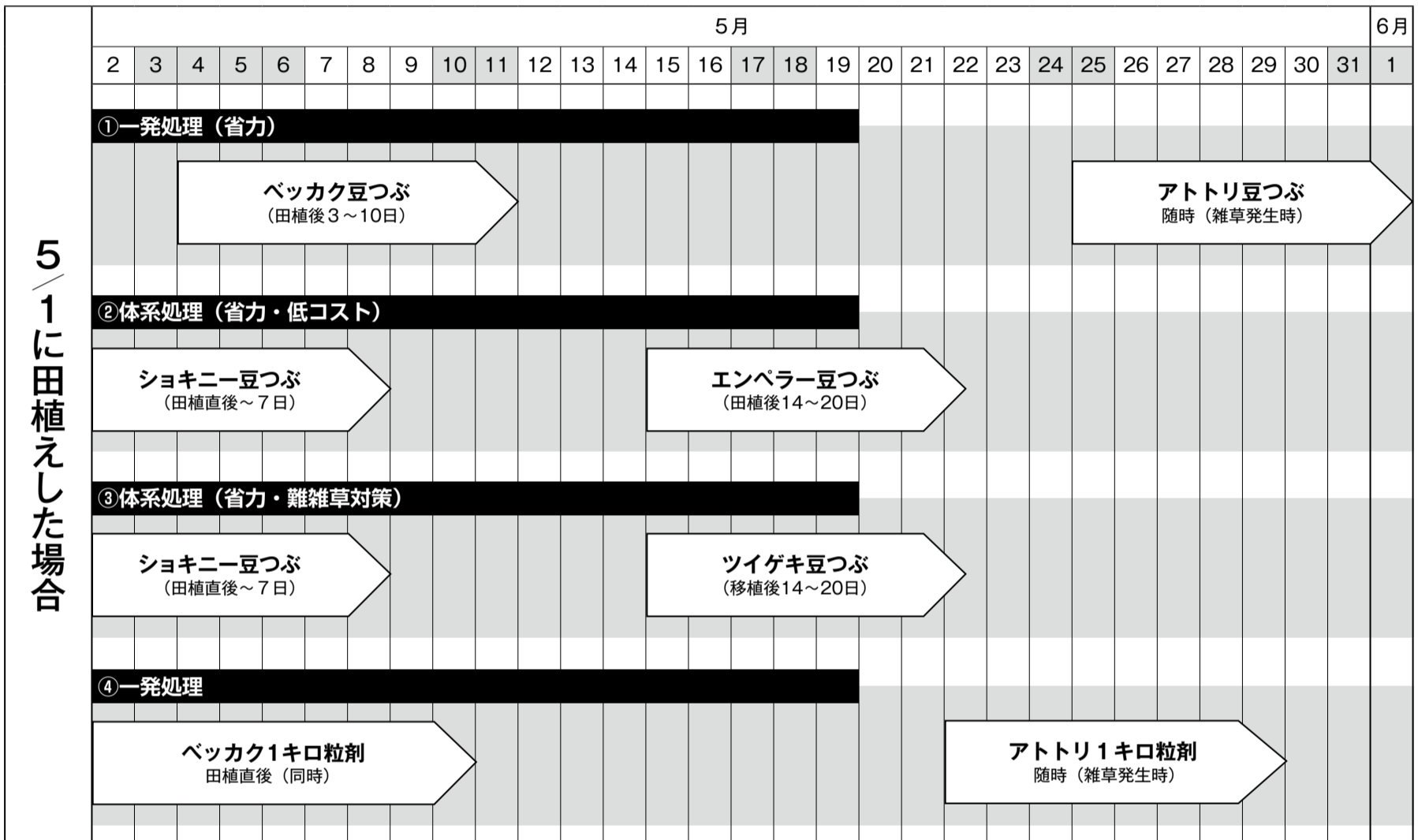
ゆめみづほ：60株/坪植え  
コシヒカリ：60株/坪植え  
植付本数3～4本/株



▲3～4本植えイメージ  
平均3本/株

今月のポイント③ ほ場にあった除草体系と除草剤散布後7日間の止水を徹底！

営農の手引き18～20、27ページも参照ください。



- ラベルに記載された使用方法を守って散布しましょう。
- 藻・表層剥離が見受けられる場合は、軽い田干しを行うかモゲトン粒剤を散布しましょう。

今月のポイント④ 田植同時除草剤の使用上の注意点

田植同時除草剤を使用する場合、苗の根が除草剤に接触すると薬害を生ずることがありますので下記の点に注意してください！（高密度播種苗の方は厳守）

- 除草剤の効果を高めるために代かきを丁寧に行う。
- 水もちの悪い圃場（1日で水がなくなる圃場）では使用しない。
- 極端な浅植えにならないよう田植機の植え付け深度を事前に調整する。→根が地表に出ないようにする

高密度播種苗栽培の注意点

- 初期病害虫防除：箱施用剤（Dr.オリゼリディア）を1箱あたり80gを施用しましょう。
- 水稻除草剤：田植え3～5日後の散布をおすすめします。
- 田植時の土壌条件：下記の点に留意してください。
  - ①植穴に速やかに土が戻る程度の固さにしましょう。
  - ②水深は落水～ひたひた程度にしましょう。
- 栽植密度と植付本数：60株/坪、3～4本/株となるよう田植機の設定を確認しましょう。
- 今月のポイント④は厳守してください。

中干し開始の目安は田植後一か月！！